

危険防止に留意を

弓を持つ楽しみは私たちは十分知っています。日々の練習や大会で事故が多く起こりうることはありません。しかしながら万が一のことに留意して弓を執りましょう。万全の心構えで。

その1



【矢の引き込み】

矢尻が弓の外竹を越えて内竹の方にまで引き込まれています。非常に危険な引き方です。

内竹の中にまで矢が入ってしまうと矢が折れ飛び自身や周囲の人にぶつかり怪我をする場合も起こります。

その2

【巻き藁練習時】

巻き藁が古く、内部が堅くなっているとき、引いた矢が跳ね返って来ることがあります。

まっすぐ後ろに飛んでくる事もあり顔などを打つときもあります。



巻き藁矢の矢尻ではない的矢を使っても跳ね返って来ることがあります。

的矢は使用しないように。

引いた後の矢の抜き取り時にも
後ろに十分注意して抜かないと
事故の元になります。



巻き藁練習している前
を通過するなどは絶対
にしてはいけません！

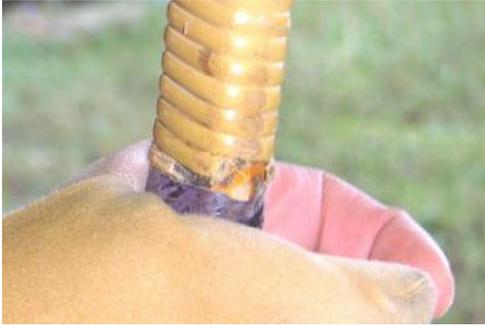
弓道部員以外の人には矢飛びの威力を知らません。
私たちは危険度の大きいことを十分に認識し、弓
を引く周囲の環境をしっかりと作りましょう。移
動可能な巻き藁練習はなおのこと注意を。

その3

【矢取り時】

引いている人がいるのに
射場と観的との確認を怠って安土に
入ってきた場合は危険そのもの。
絶対に間違いがあってはいけません。





その4

【弓具について】

矢摺り籐が切れているのはよくありません。
早めに弓具店などで修理しましょう。

筈が凹んでいて中に亀裂がある矢は折れる危険性があります。
使用しないようにしましょう。
曲がり矢は早めに筈矯めをしてもらいましょう。

